

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100064		
法人名	医療法人 泰山会		
事業所名	グループホームみよしファミリー園楓ユニット		
所在地	大分県大分市大字葛木字長溝872番地		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に沿ったサービス提供が出来る様に日々心がけ、入居者の一人一人に向き合える環境を整えるように努力している。地域での散歩や季節に応じたドライブ・買い物・祭りなど外出の機会を多く持ち社会との交流が持てるように努め調理の手伝いや食事の準備・畑の苗植えや草むしりなど職員と一緒に活動して頂きながらやりがいをみつけていただけるように工夫しています。入居者の笑顔が絶えることのないホームでありたいと職員全員が目標を持って仕事に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 自分の家という考え方を共有し、本人、家族の思いをくみ取り、環境作りや日常のケアに反映している。
2. 家族会や運営推進会議を有効に活用し、出された意見、要望を運営やケアに反映させている。
3. 管理者及び職員全体が、内部研修を通して、事業所の質の向上に意欲的に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念に則したサービスが提供できるよう、職員の意識の中に、常に理念を念頭に置きサービス提供を行う様に努めている。	職員全体で理念の共有ができており、個々の生活スタイルを大切に、普通の暮らしができるように支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩時の挨拶などにより園に見学に来て下さる方や花の苗を持ってきて下さる方が増え、地域の皆さんとも立ち話をしたりと交流を持つよう心がけ、隣の保育園の園児が遊びに来る等開かれた施設であるように努めている。	散歩や買物時のあいさつなどを通して、地元の方がボランティアで来てくれたり、花や野菜をいただいたり、中学校の教育実習の受け入れを行うなど、年を経るごとに近隣との交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の途中地域の方との話の中で認知症の説明を行ったり実際に足を運んで頂いたりしている。散歩している姿を記憶して頂いてる住民の方も多く電話での問い合わせにも対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を有意義にするために毎回テーマを決め地震対策や重度化について等各分野の方のアドバイスや指導を頂きながら改善を行っている。	毎回テーマを決めて、活発な意見交換を行っている。また、年に1回は委員全員で試食会を行い、出された意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方には立ち上げ時より相談に乗って頂き現在に至るまでアドバイスを受けながらより良いケアを目指している。	日常的に困難事例などの相談をしたり、連絡が密に取れており、家族から認知症について勉強をしたいと希望があり、市の担当者に相談したところ、調べて家族に連絡するなど、協力関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束の研修会を開いている。身体拘束は行わないという方針を立て困難な事例であっても家族と話し合いを繰り返して職員との対応に関しても皆で考え実行している。	身体拘束は行わないという方針を立て、毎年研修を実施している。困難事例は、家族とよく話し合うとともに、職員も話し合いを重ね、対応方法を工夫することで、身体拘束を行わないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を積み重ね特に言葉による虐待を重点的に行っている。又、自分の身近で虐待を感じる家庭がある場合はすぐに報告することも私たち介護職の仕事であることを意識し虐待を防止できるよう努めている。		

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年職員研修を行い外部で開催される講習会などにも積極的に参加している。成年後見制度を利用されている入居者の方がいることもあり重要視している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な時間を取り、利用者及び家族に不安が残らない様に説明を行い、疑問が生じれば常に対応できるようにしている。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の面会時に家族の方と話せるように努めている。家族会での質問や苦情などは代表者によって行政出席の会議にて、報告・検討する機会を設けている。	年4回家族会を実施し、意見、要望を聴くとともに、面会時も、管理者や担当者が家族と話すように努めている。出された意見や要望は、運営推進会議で話し合い活用している。定期的な広報紙の送付とともに、近況報告を行い、電話による報告も密に行っている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング時に職員の意見や提案に対しての話し合いの機会を設けている。	日頃から意見や提案を出し合える雰囲気が出ており、ユニットごとの話し合いや、月1回のミーティングで全員の話し合いの機会を設けている。年に1回は管理者が職員との面談を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は現場に滞在できる時間が限られている為、職員の個々の努力や実績など管理者がしっかり把握し、各自が向上心を持って働き、やりがいを持てるよう運営者への報告を密に行っている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行い事例検討会議やグループワークなどを行い、外部より講師を招き『今』必要な研修を段階的に行ったりと職員の質の向上に力を入れている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は12名の同業者の方が研修に来られたり意見交換したりとサービスの質の向上について職員全員で検討している。			

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談でご本人の思い、求めていることなどを踏まえたうえで受け入れ出来る様職員間で話し合いを積み重ね入所後はまず、なじみの関係を築く様に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族のみの事前面談を行いご本人の前では話せない内容でも心を開いて話せる環境を作り、信頼関係を築き相互協力の必要性を理解して頂く様に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所後におけるご本人の「今」を常に意識し、不安・要望などの把握に努めこまめなカンファにより満足して頂けるよう配慮している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は常に自分の家族の様に接するように努めている。掃除・洗濯・料理など暮らしの中で当たり前にある光景を心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>2ヶ月に一度ご本人の様子を便りにて報告したり面会時に必ず現状報告を行い一歩踏み込んだ関係を築き相互協力をお願い出来る様に家族との絆を深めるよう努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の知人や馴染みの方がいつでも遊びに来て頂ける様工夫したりご本人が生活していた場所を散歩やドライブしたりして馴染みの場所や人を大切にする様に努めている。</p>	<p>自宅の近く、道の駅、海など、馴染みの場所へドライブに行ったり、年が経つとだんだんと遠ざかる知人、友人の方々が、遊びに来てくださる様に働きかけたり、来やすい雰囲気作りを心がけるなど、関係が途切れない支援を心がけている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>皆で洗濯物を畳んだり、レクリエーションやグループでの散歩など入居者同士での関わりを持てる機会を大切にしているが、一人であることを好む方には職員が声をかけたりマンツーマンで作業したり買い物に出かけたりしている。</p>		

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ行かれた方の近況を電話で尋ねたり面会に職員が出かけたり、家族に連絡し状況をうかがったりして関係を断ち切らないように努め家族の心情も理解できるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方の希望など定期的にヒアリングを行い全職員が理解できるように努めており、家族に電話をかけたりに家に連れて帰って頂いたりと家族の協力を頂きながら実現している。	本人の思いや、暮らし方の希望、状況の変化時は、必ず申し送りに記録し、フェイスシートを活用することで、その時々思いや意向を全職員で把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されて長い方が殆どでこれまでの暮らしについては家族の方やご本人との話の中で情報を職員が共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りにより心身状態の把握、現状起こっている事柄などを統一した視点で把握するようにし、ボード記入により一目で分かるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見などを聞かせて頂きご本人にはモニタリングを行いながら現状の把握や希望に沿えるよう職員間での話し合いも密に行っているが面会に来られない家族には電話で連絡を取り意向に沿えるようにしている。	ユニット毎にグループミーティングを行い、気づきを話し合っている。それを基に、月1回のカンファレンスを全員で行い、計画を作成している。本人、家族とはケアマネジャーが必ず面談し、面会のない家族には電話で意見を聴くようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄やバイタルの記録を始め日々の暮らしの様子や介護計画に沿った記事など記録している。いつでも情報の共有が出来る様ファイルも見やすい位置に置いてある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の入居者の状態(精神・身体)を把握できるようにしており精神面での変動の際の気分転換の外出等柔軟に対応できるよう職員間のチームワーク作りを行い柔軟な支援が出来る様に努めている。		

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公園に出かけ近所の方に挨拶したり、犬の散歩に来られた方と話をしたりして地域社会から孤立しないよう配慮し楽しんで頂ける様に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院より毎週往診を行い、医療面の連携を図っている。尚、かかりつけ医は本人、家族の希望に合わせ対応している。	母体の病院をかかりつけ医にしている利用者がほとんどである。かかりつけ医と歯科は定期的に訪問診療があり、専門医も個々に応じた支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院より非常勤として看護職が配置されており健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護記録などによる看護職との連携も採れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院入院時には、院長の指示により退院後の本人への支援を密に職員間で話し合いを行い、他医療機関入院の際には5～10日毎に見舞いに行き回復状況など等の情報を医療・家族へと情報交換を行い、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けての意思確認書を作成し、事業所で対応しうる最大のケアについて説明を行い家族会や運営推進会議で議題として取り上げ方針を共有できるように努めており、外部より講師を迎え終末期に向けたケアや重度化に向けての研修を受けている。	重度化や終末期に向けた方針を全職員で共有しており、家族会や運営推進会議でも議題として取り上げ、事業所のできることを十分に説明している。本年度は外部講師によるターミナルケアの研修も実施した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、緊急時の応急処置の事例研修を受けており夜勤時の緊急マニュアルや、外出時の事故遭遇マニュアルなどを作成し対応に周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練などを行い地域との連携を図り情報提供や行政への連絡などを行い今回の地震による津波被害についても行政の方に相談し非難の対策を講じている。家族の方にも災害時の協力をお願いしている。	マニュアルを作成し、年2回は消防署による訓練を実施している。運営推進会議や家族会などで協力依頼をするとともに、行政とも連携がとれており、備蓄も整備されているが、地域との協力体制が構築されていない。	利用者を含めた事業所独自の避難訓練を実施するとともに、地域住民の訓練参加や協力体制の構築が期待される。

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員への教育を中心に、入居者のプライバシーに気を配り個人情報の保護法や守秘義務の知識の共有を図り、一人一人の人格を尊重した行動ができるように心がけている。	日頃から一人ひとりの尊厳やプライバシーを重視した言葉遣いに配慮しており、年1回研修を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の見直しを何度も行い、入居者の方の声に耳を傾けられるように職員がゆとりを持ち話しかけやすい雰囲気を作り、ご本人の思いや希望をゆっくり聞ける環境を作り自己決定を支援できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が過ごしてきた生活環境を理解し起きたいときに起き、食べたい時に食べながらも、リズムのある生活を維持できるようにパターンの把握を個別に行いその人らしい生活を送って頂ける様に配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院で髪を染めたり、外出できない方には理容師さんに来てもらい散髪したりしていつでも身だしなみに配慮できるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒に裏庭の畑の野菜作りを行ったり、今年は梅干しと梅酒づくりを行い、作る楽しみを味わって頂いたり、各季節料理として焼肉パーティや花見の弁当、バイキング料理などを行い目でも楽しんで頂けるように工夫している。	法人の栄養士の献立を参考に、3食ともホームで手作りをしている。希望に添ってメニューを変更したり、食べ残しの多いものは随時メニューの検討を行い、職員も一緒にテーブルを囲み、食事を一緒に楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分チェック表の作成や摂取量の少ない方は摂取量の数字記入を行い管理している。摂取量の少ない方には好きな飲み物を用意し飲用して頂き必要量を確保出来る様に努めている。食事量のチェックも欠かさず行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声掛け見守りを行い、出来ない方に対しては、毎食後のケアを行い一人一人の力に応じたケアを行っている。		

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導・介助により現状維持に努めている。オムツ使用ゼロを維持できるように自立支援を行っている。	トイレでの排泄を目指し、一人ひとりへの声かけ、誘導の仕方や排泄用品の使い方を工夫し、自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、水分摂取や緩下剤の導入・運動・腹部マッサージ等個々に応じた対応の統一したケアを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分のスタイルでゆっくり入浴できるように支援している。夜間入浴も出来る様にしていたが希望者が無く現在利用者はいない。入浴拒否の強い方には家族と相談行い入浴の介助の方法を模索している。毎日入浴されている方もいる。	毎日、希望に応じて、夜間も入浴できるように支援している。入浴拒否者に対しても、声かけを工夫するなど、家族とも相談しながら、きめ細やかな対応をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごされる方やソファでくつろがれる方などそれぞれの時間の過ごし方をされており、孤立される方には職員が談話したり遊びの声かけを行って安心して過ごして頂けるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作り、目的や副作用などが把握できるようにしている。処方箋綴りを用意し全職員がいつでも確認できるようにしている。薬の効能や処方された経緯など薬ノートの利用や申し送りで伝えるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握し、仕事としてお願いしたり、井戸端会議的な雰囲気を作り雑談しながら作業したりと職員が工夫しながら支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で食品の買い物に出かけたり、散歩・自分の住みなれた場所への外出など外に出る機会を持ち社会から隔離されることのない様に配慮している。	日常的に買物や散歩、馴染みの場所など、希望に応じた外出支援をしている。特に希望しない人にも、日当たりの良いベランダでの団らんや花壇の水やり、洗濯物干しなど、できるだけ戸外に出る支援をしている。	

事業者名 グループホームみよしファミリー園(楓)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で金銭管理している方もいる。外出の際には自分の欲しいものを自由に選び、支払いをして頂くことでお店の方と触れ合えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>個人で携帯電話を所持されている方もおり、ご本人が自宅への電話を希望される際、家族の方にも配慮しながらいつでも対応できるように心がけている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間においても季節を感じてもらえるように一緒に考えながら飾りつけをしたりしている。ベランダにはプランタンに花を植え、テラスで過ごし食堂にはできるだけ物を置かず広い空間を作るように工夫している。</p>	<p>共用空間では、調理の音や香り、季節の花や装飾などにも生活感や季節感がある。リビングの食卓やソファで思い思いにゆっくりつるいでおり、一人ひとりの時間を大切にして、居心地の良さに配慮している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の利用は、一人一人自由に過ごされており、ソファに横になる方や、友達と二人用ソファで話をされたり、リビングで過ごされたりと一人一人の時間を大切にし、個人を尊重する事でのびのび過ごして頂けるように配慮している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人の居室はその方が暮らしてきた部屋と同様に自由に家具や飾りつけなどを家族と相談しながら配置を行い、ご本人が落ち着けるようにして頂いている。</p>	<p>自分の家という考え方から、観葉植物、仏壇、家族の写真や使い慣れた道具など、それぞれの居室が、本人及び家族の思いを反映した設えになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所が分からない方でも、すぐに認識して頂けるように目印の工夫をしたり、廊下に手すりを設置し、独歩でも移動できるようにして自立支援を行っている。</p>		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100064		
法人名	医療法人 泰山会		
事業所名	グループホームみよしファミリー園桜ユニット		
所在地	大分県大分市大字葛木字長溝872番地		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に沿ったサービス提供が出来る様に日々心がけ、入居者の一人一人に向き合える環境を整えるように努力している。地域での散歩や季節に応じたドライブ・買い物・祭りなど外出の機会を多く持ち社会との交流が持てるように努め調理の手伝いや食事の準備・畑の苗植えや草むしりなど職員と一緒に活動して頂きながらやりがいをみつけていただけるように工夫しています。入居者の笑顔が絶えることのないホームでありたいと職員全員が目標を持って仕事に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【楓ユニットに記載】
------------

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている</p>	<p>理念に則したサービスが提供できるよう、職員の意識の中に、常に理念を念頭に置きサービス提供を行う様に努めている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日々の散歩時の挨拶などにより園に見学に来て下さる方や花の苗を持ってきて下さる方が増え地域の皆さんとも立ち話をしたりと交流を持つよう心がけ、隣の保育園の園児が遊びに来る等開かれた施設であるように努めている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>散歩の途中地域の方との話の中で認知症の説明を行ったり実際に足を運んで頂いたりしている。散歩している姿を記憶して頂いてる住民の方も多く電話での問い合わせにも対応している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回の会議を有意義にするために毎回テーマを決め地震対策や重度化について等各分野の方のアドバイスや指導を頂きながら改善を行っている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者の方には立ち上げ時より相談に乗って頂き現在に至るまでアドバイスを受けながらより良いケアを目指している。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎年、身体拘束の研修会を開いている。身体拘束は行わないという方針を立て困難な事例であっても家族と話し合いを繰り返し行い職員の対応に関しても皆で考え実行している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員研修を積み重ね特に言葉による虐待を重点的に行っている。又、自分の身近で虐待を感じる家庭がある場合はすぐに報告することも私たち介護職の仕事であることを意識し虐待を防止できるよう努めている。</p>		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年職員研修を行い外部で開催される講習会などにも積極的に参加している。成年後見制度を利用されている入居者の方がいることもあり重要視している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な時間を取り、利用者及び家族に不安が残らない様に説明を行い、疑問が生じれば常に対応できるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の面会時に家族の方と話せるように努めている。家族会での質問や苦情などは代表者によって行政出席の会議にて、報告・検討する機会を設けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング時に職員の意見や提案に対しての話し合いの機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は現場に滞在できる時間が限られている為、職員の個々の努力や実績など管理者がしっかり把握し、各自が向上心を持って働き、やりがいを持てるよう運営者への報告を密に行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行い事例検討会議やグループワークなどを行い、外部より講師を招き「今」必要な研修を段階的に行ったりと職員の質の向上に力を入れている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は12名の同業者の方が研修に来られたり意見交換したりとサービスの質の向上について職員全員で検討している。		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人の思い、求めていることなどを踏まえたうえで受け入れ出来る様職員間で話し合いを積み重ね入所後はまず、なじみの関係を築く様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のみの事前面談を行いご本人の前では話せない内容でも心を開いて話せる環境を作り、信頼関係を築き相互協力の必要性を理解して頂く様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後におけるご本人の「今」を常に意識し、不安・要望などの把握に努めこまめなカンファにより満足して頂けるよう配慮している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に自分の家族の様に接するように努めている。掃除・洗濯・料理など暮らしの中で当たり前にある光景を心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一度ご本人の様子を便りにて報告したり面会時に必ず現状報告を行い一歩踏み込んだ関係を築き相互協力をお願い出来る様に家族との絆を深めるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の知人や馴染みの方がいつでも遊びに来て頂ける様工夫したりご本人が生活していた場所を散歩やドライブしたりして馴染みの場所や人を大切にする様に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で洗濯物を畳んだり、レクリエーションやグループでの散歩など入居者同士での関わりを持てる機会を大切にしているが、一人でいることを好む方には職員が声をかけたりマンツーマンで作業したり買い物に出かけたりしている。		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ行かれた方の近況を電話で尋ねたり面会に職員が出かけたり、家族に連絡し状況をうかがったりして関係を断ち切らないように努め家族の心情も理解できるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方の希望など定期的にヒアリングを行い全職員が理解できるように努めており、家族に電話をかけたり家に連れて帰って頂いたり家族の協力を頂きながら実現している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されて長い方が殆どでこれまでの暮らしについては家族の方やご本人との話の中で情報を職員が共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りにより心身状態の把握、現状起こっている事柄などを統一した視点で把握するようにし、ボード記入により一目で分かるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見などを聞かせて頂きご本人にはモニタリングを行いながら現状の把握や希望に沿えるよう職員間での話し合いも密に行っているが面会に来られない家族には電話で連絡を取り意向に沿えるようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄やバイタルの記録を始め日々の暮らしの様子や介護計画に沿った記事など記録している。いつでも情報の共有が出来る様ファイルも見やすい位置に置いてある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の入居者の状態(精神・身体)を把握できるようにしており精神面での変動の際の気分転換の外出等柔軟に対応出来るよう職員間のチームワーク作りを行い柔軟な支援が出来る様に努めている。		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公園に出かけ近所の方に挨拶したり、犬の散歩に来られた方と話をしたりして地域社会から孤立しないよう配慮し楽しんで頂ける様に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院より毎週往診を行い、医療面の連携を図っている。尚、かかりつけ医は本人、家族の希望に合わせ対応している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院より非常勤として看護職が配置されており健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護記録などによる看護職との連携も採れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院入院時には、院長の指示により退院後の本人への支援を密に職員間で話し合いを行い、他医療機関入院の際には5～10日毎に見舞いに行き回復状況など等の情報を医療・家族へと情報交換を行い、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けての意思確認書を作成し、事業所で対応しうる最大のケアについて説明を行い家族会や運営推進会議で議題として取り上げ方針を共有できるように努めており、外部より講師を迎え終末期に向けたケアや重度化に向けての研修を受けている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、緊急時の応急処置の事例研修を受けており夜勤時の緊急マニュアルや、外出時の事故遭遇マニュアルなどを作成し対応に周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練などを行い地域との連携を図り情報提供や行政への連絡などを行い今回の地震による津波被害についても行政の方に相談を行い非難の対策を講じている。家族の方にも災害時の協力をお願いしている。		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員への教育を中心に、入居者のプライバシーに気を配り個人情報の保護法や守秘義務の知識の共有を図り、一人一人の人格を尊重した行動ができるように心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の見直しを何度も行い、入居者の方の声を傾けられるように職員がゆとりを持ち話しかけやすい雰囲気を作り、ご本人の思いや希望をゆっくり聞ける環境を作り自己決定を支援できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が過ごしてきた生活環境を理解し起きたいときに起き、食べたい時に食べながらも、リズムのある生活を維持できるようにパターンの把握を個別に行いその人らしい生活を送って頂ける様に配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院で髪を染めたり、外出できない方には理容師さんに来てもらい散髪したりしていつでも身だしなみに配慮できるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒に裏庭の畑の野菜作りを行ったり、今年は梅干しと梅酒づくりを行い、作る楽しみを味わって頂いたり、各季節料理として焼肉パーティや花見の弁当、バイキング料理などを行い目でも楽しんで頂けるように工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分チェック表の作成や摂取量の少ない方は摂取量の数字記入を行い管理している。摂取量の少ない方には好きな飲み物を用意し飲用して頂き必要量を確保出来る様に努めている。食事量のチェックも欠かさず行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声掛け見守りを行い、出来ない方に対しては、毎食後のケアを行い一人一人の力に応じたケアを行っている。		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導・介助により現状維持に努めている。オムツ使用ゼロを維持できるように自立支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、水分摂取や緩下剤の導入・運動・腹部マッサージ等個々に応じた対応の統一したケアを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分のスタイルでゆっくり入浴できるように支援している。夜間入浴も出来る様にしていたが希望者が無く現在利用者はいない。入浴拒否の強い方には家族と相談行い入浴の介助の方法を模索している。毎日入浴されている方もいる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごされる方やソファーでくつろがれる方などそれぞれの時間の過ごし方をされており、孤立される方には職員が談話したり遊びの声かけを行って安心して過ごして頂けるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作り、目的や副作用などが把握できるようにしている。処方箋綴りを用意し全職員がいつでも確認できるようにしている。薬の効能や処方された経緯など薬ノートの利用や申し送りで伝えるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握し、仕事としてお願いしたり、井戸端会議的な雰囲気を作り雑談しながら作業したりと職員が工夫しながら支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で食料品の買い物に出かけたり、散歩・自分の住みなれた場所への外出など外に出る機会を持ち社会から隔離されないことのない様に配慮している。		

事業者名: グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理している方もいる。外出の際には自分の欲しいものを自由に選び、支払いをして頂くことでお店の方と触れ合えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方もおり、ご本人が自宅への電話を希望される際、家族の方にも配慮しながらいつでも対応できるように心がけている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間においても季節を感じてもらえるように一緒に考えながら飾りつけをしたりしている。ベランダにはプランタンに花を植え、テラスで過ごしたり食堂にはできるだけ物を置かず広い空間を作るように工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の利用は、一人一人自由に過ごされており、ソファーに横になる方や、友達と二人用ソファーで話をされたり、リビングで過ごされたりと一人一人の時間を大切に、個人を尊重する事でのびのび過ごして頂けるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室はその方が暮らしてきた部屋と同様に自由に家具や飾りつけなどを家族と相談しながら配置を行い、ご本人が落ち着けるようにして頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない方でも、すぐに認識して頂けるように目印の工夫をしたり、廊下に手すりを設置し、独歩でも移動できるようにして自立支援を行っている。		